

食物学における「人間守護」概念とその検討について(5)

— 研究目的、方法をとおして学の価値体系を求めて —

郡山女子大家政 ○山田幸二 金子憲太郎 倉沢文夫

家政学は人間中心の諸領域の統合化された学問であるべきだが、現代の家政学はややもすると、それぞれの領域が細分化され、家政学との構造的な位置づけが保たれていない感がある。家政学の一分野である食物学についても同じことが考えられるので、本研究は家政学の体系と食物学の位置づけについて検討を加える。

食物学と称する学問分野は、名称は若干異なるが、家政学にも農学、工学、医学においても汎用的に内包される現状である。また、家政学部における食物学はいしは食物栄養学等と農学部や工学部における同学等とはどのような同質性、または異質性があるのか、もし、同質性のみでありうるならば、何政学部別にこれらの学問分野を位置づけているのであろうか、このことは比較的長期間疑義をもたれ、時には無視されているやで今日を迎えているが、このことはどのような意義を有するのであろうか。

讀者らは、家政学部における食物学と農学部における同学等の研究内容等を比較しつつ、その意味および体系的な位置づけを明らかにし、家政学部における食物学について家政学としての構造的な位置づけをふまえて、関口が示唆している家政学を「人間守護」の概念とどのように融合するのであろうかを研究方法により論及するものである。勿論、食物学と一括して表現しても、そこには、食品材料学(食品原料学)、食品化学、食品加工貯蔵学、食品衛生学、食物栄養学(栄養生理・生化学も含む)、調理学等とさらに専門分化されているが、ここでは概論的に食物学等として検討を試みるものである。